

令和7年度着手

県営 たぬきやま 狸山地区 土地改良事業計画書

(経営体育成基盤整備事業)

愛 知 県

目

次

第1章	目的	1	6	級地別土地利用区分	19
第2章	地域及び地積	1	7	土地配分計画	19
第1節	地域	1	第3節	用水計画	20
第2節	地積	1	1	計画基準年	20
第3章	現況	2	2	計画かんがい方式	20
第1節	気象	2	3	計画用水系統	20
1	一般気象	2	4	計画用水量	20
2	特殊気象	3	5	水源計画	22
第2節	土地状況	4	第4節	排水計画	23
1	地形、土壌及び浸食の程度	4	1	計画基準雨量	23
2	土地分類	4	2	計画排水方式	23
3	土地利用の状況	5	3	計画排水系統	23
4	土地所有の状況	5	4	計画排水量	23
第3節	水利状況	6	5	排水対策	23
1	用水状況	6	6	湛水検討	25
2	排水状況	8	第5節	道路計画	25
3	河川状況	10	1	道路及び索道	25
第4節	道路概況	11	2	路線配置図	25
第5節	地域農業の概況	13	第6節	農用地造成計画	27
1	産業別就業人口	13	第7節	洪水調整計画	27
2	経営耕地広狭別農業経営体数	13	第8節	干拓計画	27
3	主要家畜頭数	14	第9節	農用地整備計画	27
4	主要作物作付状況	14	1	区画整理	27
5	農業の動向	15	2	暗渠排水	29
第6節	地域環境の概況	16	3	客土	29
1	特に配慮すべき生物環境	16	4	農地保全	29
2	特に配慮すべき生物以外のもの	16	第10節	老朽ため池改修計画	29
第4章	一般計画	17	第5章	主要工事計画	30
第1節	事業計画の要旨	17	第1節	用水施設	30
1	要旨	17	1	貯水池	30
2	事業別面積	17	2	頭首工	30
第2節	営農計画及び土地利用計画	17	3	揚水機	30
1	営農計画の概要	17	4	用水路	30
2	土地利用区分	17	5	その他かんがい施設	30
3	作付方式	18	第2節	排水施設	31
4	生産計画	18	1	排水水門	31
5	労働改善計画	19	2	排水機	31

目

次

3	排水路	31	第10章	事業費の総額及び内訳	39
4	その他排水施設	31	第11章	効用	40
第3節	道路及び索道	32	第12章	関連する事業	41
1	道路	32	第13章	現況・計画平面図	41
2	索道	32			
第4節	農用地造成	32			
第5節	洪水調整施設	32			
第6節	干拓施設	32			
第7節	農用地整備施設	33			
1	区画整理	33			
2	暗渠排水	33			
3	客土	34			
4	除礫	34			
5	農地保全	34			
第8節	老朽ため池改修施設	34			
第6章	附帯工事計画	34			
第7章	工事の着手及び完了の予定時期	35			
1	工期	35			
2	工事の年度割予定	35			
第8章	環境との調和への配慮	35			
1	配慮の対象	35			
2	配慮の方法	35			
第9章	換地計画の概要	36			
第1節	換地計画を作成する上での基本的な考え方	36			
第2節	換地区の設定	36			
1	換地区の名称、所在、面積	36			
2	換地区を設定する理由	36			
第3節	換地計画樹立の基本方針	36			
1	従前の土地の地積の基準	36			
2	用途別予定地積	37			
3	農用地集団化の方針	37			
4	非農用地換地の方法	38			
第4節	土地の評価及び精算の方法	38			
1	評価の方法	38			
2	清算の方法	38			
第5節	換地計画樹立の年度計画	38			
第6節	換地処分の特則	38			

第1章 目的

本地区は、愛知県豊田市の南西部に位置し、二級河川猿渡川流域に広がる水田地帯であり、水稻を中心とした営農が展開されている。
 本地区の農地は、ほ場整備未実施の地区であるため区画は約10aと小さく、道路幅員が狭い。また、用排分離がされておらず、農地に接する末端排水路が無い農地も多いため、水管理に多大な労力を要している状況である。
 本事業は、区画整理による大区画化、道路拡幅、用排水路・暗渠排水の農業生産基盤を整備することで生産性の高い優良農地を確保するとともに、農業の生産性の向上及び農地中間管理機構を介して担い手への農地集積を促進し、本地域の農業経営の改善と安定を図ることを目的とする。

第2章 地域及び地積

第1節 地域

(第1表)

事業名	地域
経営体育成基盤整備事業	豊田市

第2節 地積

(令和6年12月現在)

(第2表)

市町村名	現況地目						計 (ha)	備考
	田 (ha)	畑 (ha)	原野 (ha)	山林 (ha)	その他 (ha)			
豊田市	25.7	-	-	-	2.1	27.8	登記簿面積及び図測面積	
合計	25.7	-	-	-	2.1	27.8		

第3章 現 況

第1節 気 象

1 一般気象

(第3表-1)

観測所名	豊田	かんがい期	非かんがい期	計又は平均	備 考
観測期間	平成3年～令和2年	4月～9月	10月～3月		
平均気温 (℃)		22.0	8.6	15.3	
降水量	平均(mm)	968	503	1,470	
	基準年(mm)	499	617	1,116	基準年は昭和18年
降水日数	平均(日)	63	44	107	
	基準年(日)	55	66	121	基準年は昭和18年
根雪期間		一月一日	～ 一月一日	(- 日間)	
無霜期間		3月26日	～ 11月26日	(246 日間)	名古屋地方気象台
最多風向		北西	最大風速 (風 向)	12.0 m/s (南)	最多風向発生時期 1 月 ～ 12 月 最大風速発生年月日 昭 和 54 年 10 月 1 日

2 特殊気象

(第3表-2)

観測所名	第1位			第2位			第3位			第4位			第5位			備考
	豊田															
観測期間	数 量	年 月 日	発 生 確 率	数 量	年 月 日	発 生 確 率	数 量	年 月 日	発 生 確 率	数 量	年 月 日	発 生 確 率	数 量	年 月 日	発 生 確 率	
昭和51年～令和5年																
最大日雨量 (mm)	217.0	H12.9.11	1/77	196.0	H12.9.12	1/44	188.5	R5.6.2	1/36	184.0	H1.9.3	1/32	175.0	S58.9.28	1/25	
最大時間雨量 (mm)	63.5	H29.8.11	1/35	61.0	H12.9.11	1/27	59.0	R3.7.12	1/23	58.0	S58.9.28	1/20	56.5	H24.8.11	1/18	
最大4時間雨量 (mm)	194.0	H12.9.11 22:00～	1/1000 以下	116.0	S54.9.24 20:00～	1/34	106.0	H12.6.24 23:00～	1/20	103.0	R5.6.2 9:00～	1/17	98.0	H11.6.29 22:00～	1/13	
最大連続雨量 (mm)	413.0	H12.9.11 ～9.12	1/363	297.0	H1.9.1 ～9.6	1/23	290.0	S54.6.27 ～7.3	1/19	244.0	S58.9.24 ～9.28	1/7	243.0	S54.9.22 ～10.1	1/7	
最大連続干天日数 (日)	41	H10.12.9 ～H11.1.18	1/52	40	S61.1.5 ～2.13	1/45	38	H7.7.23 ～8.29	1/34	36	H9.10.8 ～11.12	1/26	35	H7.11.24 ～12.28	1/22	

第2節 土地状況

1 地形、土壌及び浸食の程度

(第4表-1-1)

事業名	地目 傾斜区分	田						畑・その他								受益地標高(m)		備考	
		1/1,000 以下	1/1,000 ～ 1/100	1/100 ～ 1/20	1/20 ～ 1/11.5	1/11.5 ～ 以上	計	3° 以下	3° ～ 8°	8°～15°			15° ～ 20°	20° 以上	計	最高	最低		
										8° ～10°	10° ～15°	小計							
経営体 育成基盤 整備事業	面積 (ha)	-	25.7	-	-	-	25.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	37.71	25.86	
	比率 (%)	-	100	-	-	-	100	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

(第4表-1-2)

項目 土壌統(区)名	土壌統(区)区分一覧表										面積(ha)		備考
	土壌断面								堆積 様式	母 材	事業名		
	色	腐植	礫層	酸化 沈殿物	土性			泥炭層 黒泥層 及び グライ層			経営体育成 基盤整備事業	計	
					表土	下層土							
				一層	二層	三層							
岩屋統	青灰色	なし	なし	糸根、管状 含～富	強粘質	強粘質	強粘質	なし	水積	非固結 水成岩	0.7	0.7	田
							なし						
高棚統	灰色	なし	なし	糸根、斑状 有～含	強粘～ 粘質	強粘～ 粘質	強粘質	なし	洪積	非固結 水成岩	1.0	1.0	田
古屋統	黄褐色	なし	なし	糸根、斑状含 ～富	強粘～ 粘質	強粘～ 粘質	強粘～ 粘質	なし	洪積	非固結 水成岩	24.0	24.0	田
計	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	25.7	25.7	

2 土地分類

該当なし

3 土地利用の状況

(令和6年12月現在)

(第4表-3)

事業名	土地利用別 市町村名	耕 地						原 野	山 林	採 草 放 牧 地	そ の 他	計	備 考
		水 田 (ha)	普 通 畑 (ha)	牧 草 地 (ha)	果 樹 園 (ha)	茶 園 (ha)	樹 園 地 其 他 (ha)						
経営体育成 基盤整備事業	豊田市	25.7	-	-	-	-	-	-	-	-	2.1	27.8	

4 土地所有の状況

(令和6年12月現在)

(第4表-4)

事業名	区分	所有別				計	備 考
		個人有地等	国有地	県有地	市有地		
経営体 育成基盤 整備事業	面 積 (ha)	27.2	-	-	0.6	27.8	
	受益者数 (人)	71	-	-	-	71	
	筆 数 (筆)	202	-	-	31	233	
	権 利 関 係	農地中間管理権	-	-	-	-	
	備 考 (関係戸数)	61	-	-	-	61	

第3節 水利状況

1 用水状況

用水は、枝下用水掛りであり、基幹パイプラインから開水路へ流して配水しており、水管理に多大な労力を費やしている。

(1) 用水系統

(次頁 現況用水系統図参照)

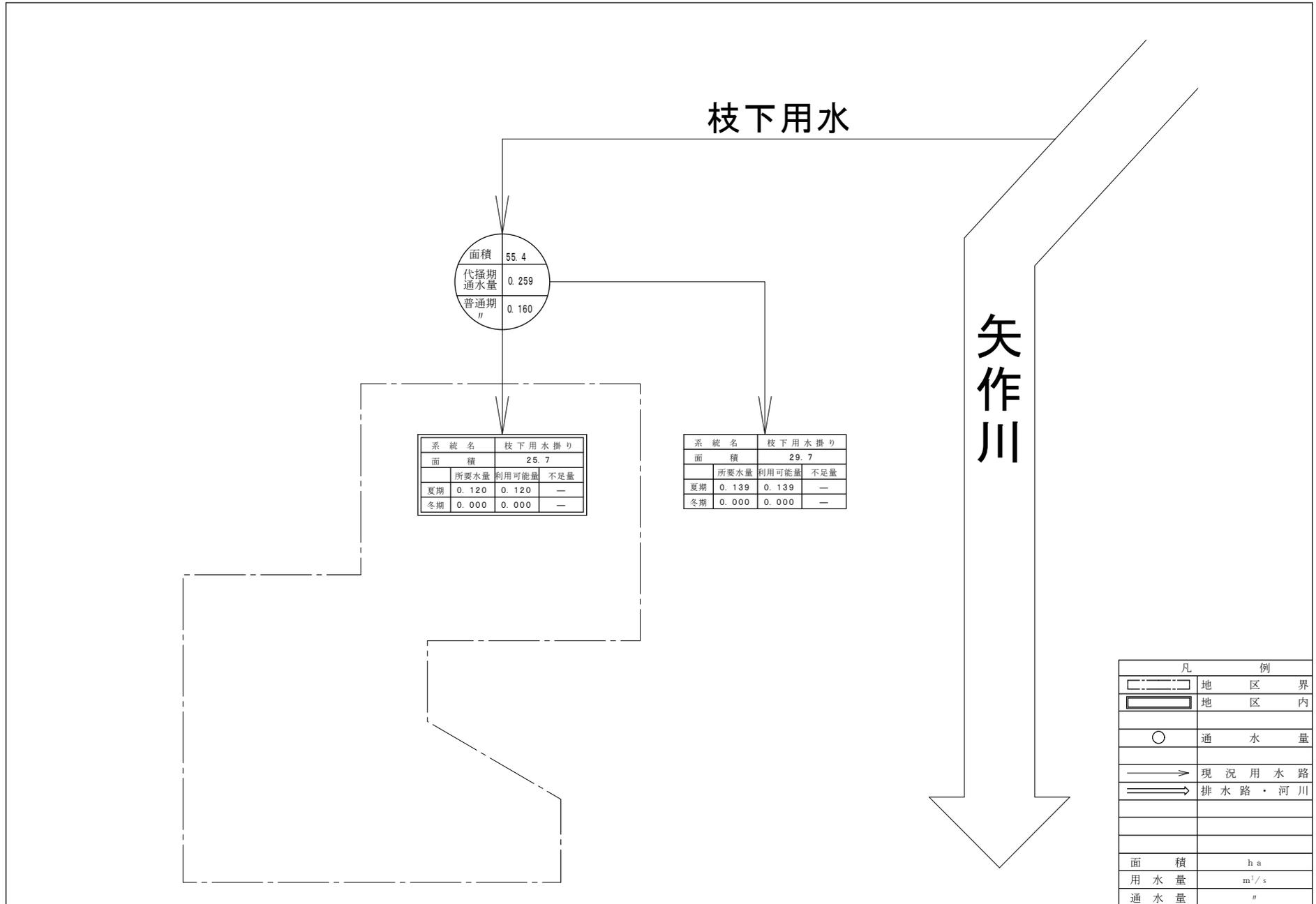
(2) 用水施設

(ア) 取水方法一覧表

(第5表-1)

事業名	項目 施設名	かんがい面積						計		許可水利権		慣行水利権		延べ取水量		備考
		500ha以上		100～500ha		100ha未満		箇所	ha	箇所	m ³ /s	箇所	m ³ /s	箇所	m ³ /s	
		箇所	ha	箇所	ha	箇所	ha									
経営 体育 成基 盤整 備事 業	貯水池	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	井堰	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	自然取入口	-	-	-	-	1	25.7	1	25.7	-	-	1	8.695	-	-	枝下用水
	揚水機	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	計	-	-	-	-	1	25.7	1	25.7	-	-	-	-	-	-	

現況用水系統図



(イ) 改修を要する施設一覧表

(第5表-2)

事業名	項目	施設名 又は 箇所数	受益面積 (ha)	構造	規模	新設年又は更新年	改修を必要 とする理由	備考
	施設名							
経営 体育 成基 盤整 備事 業	貯水池	-	-	-	-	-	-	
	井堰	-	-	-	-	-	-	
	自然取入口	-	-	-	-	-	-	
	揚水機	-	-	-	-	-	-	
	用水路	1	25.7	開水路	U-180 ~U-300	昭和27年	用排分離・老朽化	
	その他	-	-	-	-	-	-	
	計		1	25.7				

(3) 用水に関する被害状況

該当なし

(4) ため池決壊の場合の想定被害状況

該当なし

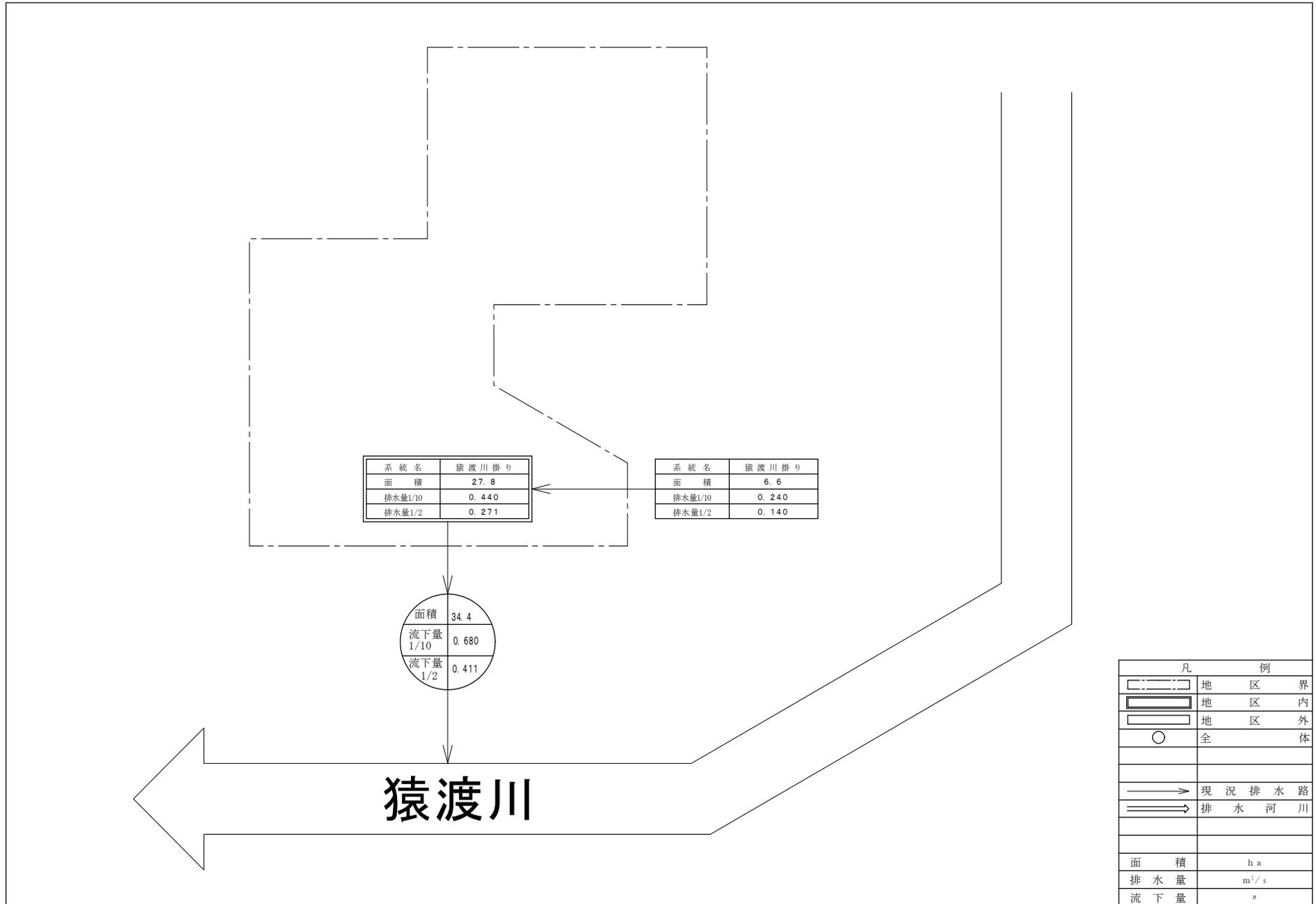
2 排水状況

排水は、地区外既設排水路への自然排水であるが排水路の無い農地も多く、排水に支障をきたしている。

(1) 排水系統

(次頁 現況排水系統図参照)

現況排水系統図



系統名	猿渡川掛り
面積	27.8
排水量1/10	0.440
排水量1/2	0.271

系統名	猿渡川掛り
面積	6.6
排水量1/10	0.240
排水量1/2	0.140

面積	34.4
流下量1/10	0.680
流下量1/2	0.411

猿渡川

凡 例	
	地区界
	地区内
	地区外
	全体
	現況排水路
	排水河川
面積	h a
排水量	m ³ /s
流下量	"

(2) 排水施設
(ア) 排水方法一覧表

(第5表-4)

事業名	項目 施設名		排水面積						計		排水慣行 (m ³ /s)	現況 排水能力 (m ³ /s)	備考
			500ha以上		500～100ha		100ha未満		箇所	ha			
			箇所	ha	箇所	ha	箇所	ha					
経営 体育 成基 盤整 備事 業	自然	排水路	-	-	-	-	1	[27.8] 34.4	1	[27.8] 34.4	-	0.680	
		水門	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	機械	排水機	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
		水門及び排水機	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
		排水路及び排水機	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	計		-	-	-	-	1	[27.8] 34.4	1	[27.8] 34.4	-	0.680	

[]は地区内分

(イ) 改修を要する施設一覧表

(第5表-5)

事業名	項目 施設名		施設名又は 箇所数	受益面積 (ha)	構造	規模 (mm)	新設年又は 更新年	改修を必要 とする理由	備考
経営 体育 成基 盤整 備事 業	自然	排水路	1	25.7	組立柵渠 U型水路	U-150 ～ I型300×300	昭和27年	用排分離 老朽化	
		水門	-	-	-	-	-	-	
	機械	排水機	-	-	-	-	-	-	
		水門及び排水機	-	-	-	-	-	-	
		排水路及び排水機	-	-	-	-	-	-	
	合計		-	25.7	-	-	-	-	

(3) 排水に関する被害状況
該当なし

3 河川状況
該当なし

第4節 道路概況

1 道路概況

主要道路は、地区の中央を東西に横断する一般県道岡崎豊明線（県道239号）があり、これに市道が接続し、さらに地区内の農地へ入る農道に繋がっている。地区内道路は幅員が狭小で車両のすれ違いが困難かつ行き止まりが多く、農作業機械の導入や営農活動に支障をきたしている。

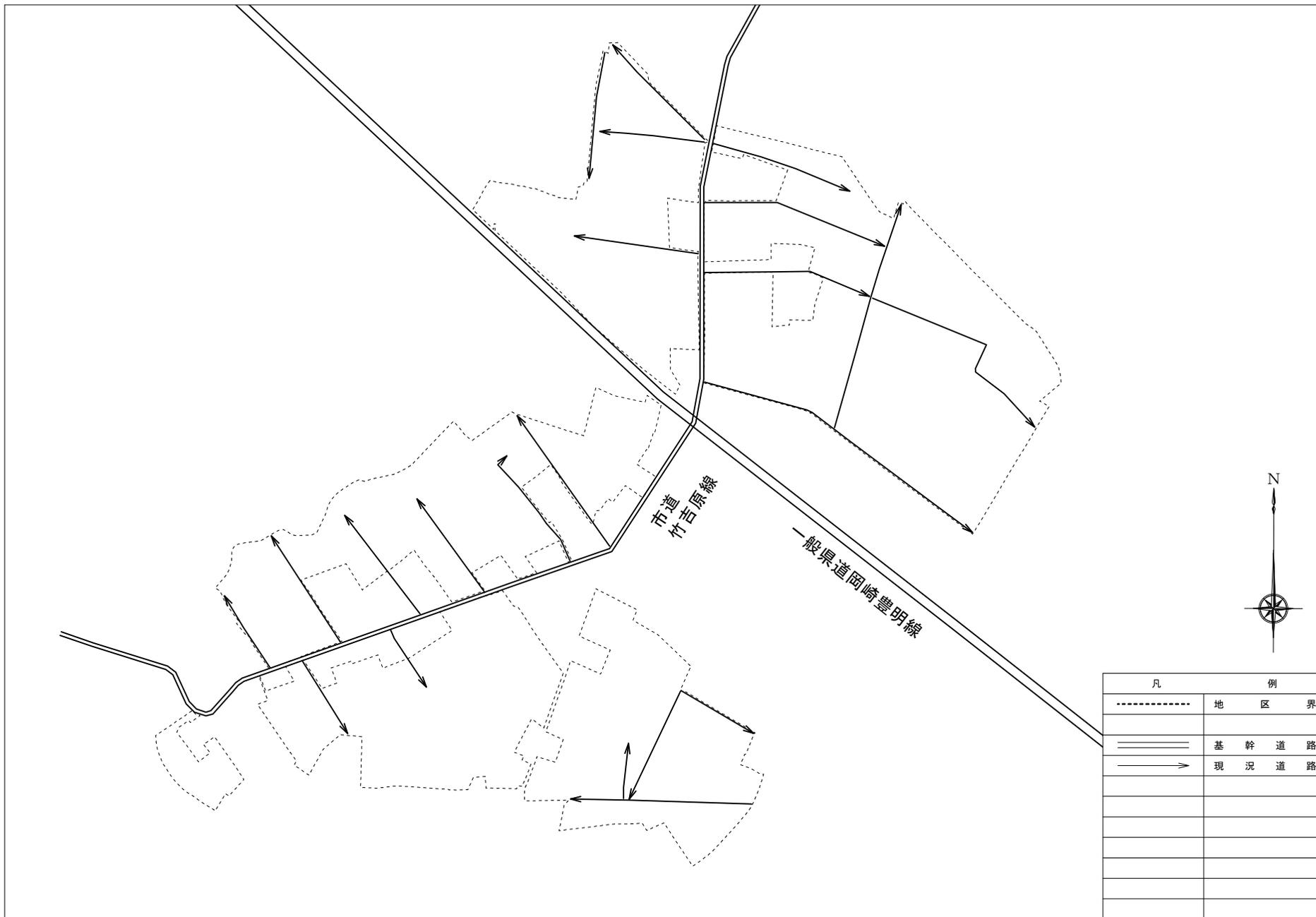
（次頁 現況道路配置図参照）

2 主要道路一覧表

（第6表）

NO.	路線名	管理区分	延長 (m)	幅員 (m)		構造	改修の要否	備考
				全幅	有効			
1	一般県道 岡崎豊明線 (239号)	愛知県	700	11.5	11.5	アスファルト舗装	否	
2	市道 竹吉原線	豊田市	1,030	7.3	4.0	アスファルト舗装	否	

現況道路配置図



第5節 地域農業の概況

1 産業別就業人口

(第7表-1)

項目 市町村名	総数 (人)	農業 (人)	林業 (人)	漁業 (人)	鉱業 (人)	建設業 (人)	製造業 (人)	水熱電 道供ガ 業給ス (人)	通運 信 業輸 (人)	飲小卸 食売 店業売 (人)	保金 険 業融 (人)	不動 産 業 (人)	サー ビス 業 (人)	公 務 (人)	そ の 他 (人)	備 考
	豊田市	231,303	3,668	225	25	48	11,229	95,191	553	13,792	25,689	2,727	2,773	71,512	3,871	-
比率(%)	100.0	1.6	0.1	0.0	0.0	4.9	41.1	0.2	6.0	11.1	1.2	1.2	30.9	1.7	-	令和2年度 国勢調査

2 経営耕地広狭別農業経営体数

(第7表-2)

区分 市町村名	農業 経営 体 数 (経営体)	経営耕地広狭別農業経営体数(経営体)										1経営体当り平均 農用地面積(ha)				備考
		0.3 ha 未満	0.3 ～ 0.5 ha	0.5 ～ 1.0 ha	1.0 ～ 1.5 ha	1.5 ～ 2.0 ha	2.0 ～ 3.0 ha	3.0 ～ 5.0 ha	5.0 ～ 10.0 ha	10.0 ～ 20.0 ha	20.0 以上	田	畑	樹 園 地	草 地	
豊田市	1,994	83	693	794	201	72	64	40	20	11	16	1.54	0.26	0.57	4.27	
比率(%)	100.0	4.2	34.7	39.8	10.1	3.6	3.2	2.0	1.0	0.6	0.8	23.2	3.9	8.6	64.3	

(出典:2020年農林業センサス)

3 主要家畜頭数

(第7表-3)

項目 市町村名	主要家畜								備考
	乳用牛		肉用牛		豚		家きん		
	数量 (頭)	経営 体数 (経営体)	数量 (頭)	経営 体数 (経営体)	数量 (頭)	経営 体数 (経営体)	数量 (100羽)	経営 体数 (経営体)	
豊田市	775	11	X	25	X	2	658	10	2020年農林業センサス 「-」は、事実のないもの。 「X」は秘密保護上統計数値を公表しないもの。
100経営体当り数量 (頭、100羽)	7,045		-		-		6,580		
飼養経営体数の割合(%)	0.6		1.3		0.1		0.5		

4 主要作物作付状況

(第7表-4)

市町村名	豊田市		作付割合 (%)	備考
総耕地面積 (ha)	3,339			
作物名	区分	作付面積 (ha)		
水稻		X	-	2020農林業センサス 作付面積は、経営耕地面積のうち販売目的作付け(栽培)した作物の類別作付(栽培)面積である。 「-」は、事実のないもの。 「X」は秘密保護上統計数値を公表しないもの。
麦類		825	58.6	
雑穀		6	0.4	
いも類		8	0.6	
豆類		333	23.7	
工芸作物		X	-	
野菜類		X	-	
果樹類		154	10.9	
花き類・花木		24	1.7	
その他の作物		58	4.1	
計		1,408	100.0	

5 農業の動向

(第7表-5)

項目 区分	農業経営体			土地			主要作物			主要家畜			地域指定等	備考
		B	A		B	A	作物名	B	A	家畜名	B	A		
変化の状況 (C年を100とする指数)	農業経営体数	78	59	耕地	85	84	水稻	82	X	乳用牛	108	54	農振整備計画 昭和45年指定 昭和49年認可 野菜指定産地 平成17年指定 秋冬はくさい 野菜集団産地 平成16年指定 春夏にんじん 夏秋なす 果樹濃密団地 平成18年指定 なし かき ぶどう もも くり いちじく A：令和2年 (2020年) B：平成27年 (2015年) C：平成22年 (2010年) 農業センサス値 ー：事実のないもの X：統計数値が公表されていない ために指数を求められないもの	
	個人経営体数	78	58	田	88	88	麦類	78	105	肉用牛	X	X		
	団体経営体(法人)数	168	154	畑	75	71	豆類	110	110	豚	148	X		
	団体経営体(非法人)数	57	50	樹園地	81	69	野菜	99	X	採卵鶏	70	24		
							果樹	X	64					
変化の理由	他産業への転職、高齢化に伴う離農により個人経営体は減少傾向にあるが、法人経営体は増加傾向にある。			宅地等への転用により減少傾向にある。			農業経営体の減少、農地の減少等により作付面積も減少しているが、都市地域においては麦・大豆への転換が盛んになっている。			農業者の高齢化が進んでいるため、特に乳用牛・採卵鶏は減少傾向にある。			酪肉近代化 平成18年指定	

(出典：2010年, 2015年, 2020年農林業センサス)

第6節 地域環境の概況

豊田市は愛知県のほぼ中央に位置する。また、市のほぼ中央を貫流する一級河川矢作川の上・中流部に位置している。

東部に広がる西三河丘陵や三河山地、矢作川などの雄大な自然景観が見られるほか、矢作緑地、枝下緑道などの市街地に見られる水と緑が一体となった公園緑地の景観、低地に展開する広大な田園景観、里山に囲まれた農山村の景観など、さまざまな特色ある景観が形成されている。

このような豊かな自然環境は、最大かつ次世代に継承すべき貴重な資産であり、適切な農業生産活動とともに自然・社会経済条件による生活活動によって築き上げてきた重要な環境資源である。また、適切な農業生産活動や生活活動により、洪水防止、土壌浸食防止、土砂崩壊防止、水源の涵養、生物多様性の保全、文化の伝承といった農業・農村の持つ多面的機能を発揮しており、地域経済の安定のほか、環境保全にも重要な役割を果たしている。これら多面的機能を維持、発揮していくためには、自然環境、社会環境、生産環境に留意しながら持続的に維持、発展していく必要がある。

1 特に配慮すべき生物環境（植物、植生、動物）

(1) 植物

山地、丘陵地、低地などの多様な地形によって身近に様々な植生が見られる。豊田市全域でみられるのはオオマツヨイグサ、オミナエシ、キキョウ、スギナ、セイヨウタンポポ、ニリンソウ、ハルジオン、ヒガンバナ、ヒメジョオン、ミズヒキ等。

また、群落は市東部及び北部の山間地域に「ツルヨシ群落」「サカキーコジイ群落」などの自然草原や自然林が分布している。しかし全域としてみると植林地の「スギ・ヒノキ・サワラ植林」、二次林の「コナラークリ群落」が多く分布している。

特定植物群落として、「松平神社（東照宮）のシイ林」、「八柱神社のツブラジイ林」、「猿投山の常緑針葉樹林」、「段戸裏谷原生」をはじめ12群落が指定されている。

代表的な絶滅の恐れがある種としてシデコブシ等がいる。

(2) 動物

山地、丘陵地、低地などの多様な地形と河川を生息環境としたさまざまな動物が見られる。特に矢作川は流量が保たれているため、多様な魚類をはじめ昆虫、鳥類が生息し、地域を特徴づける生態系の基盤となっている。豊田市全域でみられるのはサワガニ、オニヤンマ、カブトムシ、ギンヤンマ、クマゼミ、ヒグラシ、マツムシ、ミンミンゼミ、カッコウ、ツバメ、ヒバリ等。

また、代表的な絶滅の恐れがある種としてウシモツゴ、カワバタモロコ、ギフチョウ等がいる。

2 特に配慮すべき生物以外のもの（景観・文化財他）

自然・景観資源としては、矢作川をはじめ奥矢作湖や三河湖といった川や湖、王滝渓谷・香嵐渓の紅葉、小原の四季桜、藤岡のふじの回廊に代表される花木など多様な自然資源に恵まれている。

歴史・文化資源としては、挙母城址をはじめ城跡公園足助城、大沼城跡、武節城址などの城跡・陣屋跡・屋敷跡が数多くあるほか、神社・仏閣等には徳川氏の始祖、松平氏発祥の地として知られ国指定重要文化財に指定されている「松平東照宮」、「松平城跡」、「高月院」など数多くの歴史・文化資源がある。

伝統文化・祭りとしては400年近く絶えることなく受け継がれてきた「松平春まつり」やお盆行事として100年以上続く「万燈まつり」など由緒ある祭りが行われている他、夏の一大イベントとして定着している「豊田おいでんまつり」では「おいでん総踊り」や「花火大会」なども行われている。また、「猿投まつり」で行われる「棒の手」は県の無形民俗文化財に指定されている。

第4章 一般計画

第1節 事業計画の要旨

1 要旨

本事業は、区画整理による大区画化、道路拡幅、用排水路、暗渠排水を整備することで生産性の高い優良農地を確保するとともに、農業の生産性の向上及び農地中間管理機構を介して担い手への農地集積を促進し、本地域の農業経営の改善と安定を図ることを目的とする。

2 事業別面積

(第8表)

事業名 土地 利用区分	経営体育成基盤整備事業						計 (ha)	備考
	水田 (ha)	普通畑 (ha)	牧草地 (ha)	果樹園 (ha)	その他 (ha)	小計 (ha)		
事業目的	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	
区画整理	22.6	-	-	-	5.2	27.8	27.8	図測より求積
計	22.6	-	-	-	5.2	27.8	27.8	

第2節 営農計画及び土地利用計画

1 営農計画の概要

計画の標準区画を30a (40m×75m) とし、農地中間管理権を利用して担い手への農地集積集団化を図り、担い手農家による大型機械の利用による低コスト営農を確立し、農業経営の安定を図るものとする。

事業後の土地利用区分は、田22.6haを計画する。本地区の担い手の営農類型は、「水稻・麦・大豆作」であり、地域の特性を生かした農業発展を目指す。

2 土地利用区分

(第9表-1)

事業名	土地利用 区分	水田	普通畑	牧草地	果樹園	茶園	その他	小計	原野	山林	その他	計	備考
		(ha)											
経営体 育成基盤 整備事業	現況	25.7	-	-	-	-	-	25.7	-	-	2.1	27.8	
	計画	22.6	-	-	-	-	-	22.6	-	-	5.2	27.8	

5 労働改善計画

(第9表-4)

事業名	項目 土地利用区分	作物名	作付面積 (ha)	単位面積当り労働投下量(hr/10a)				備考
				区分	現況	計画	増減	
経営 体育 成基 盤整 備事	水田	水稲	16.4	人 力	38.9	5.2	△ 33.7	作付面積 上段：計画 下段：[現況]
			[23.6]	機 械 力	7.1	2.7	△ 4.4	
		小麦	5.5	人 力	13.1	6.4	△ 6.7	
			[0.0]	機 械 力	5.9	3.7	△ 2.1	
		大豆	5.5	人 力	27.8	4.9	△ 22.9	
			[0.0]	機 械 力	10.0	3.9	△ 6.1	
	計	27.4						
		[23.6]						

6 級地別土地利用区分

該当なし

7 土地配分計画

該当なし

第3節 用水計画

- 1 計画基準年
昭和18年 県営かんがい排水事業枝下地区事業計画による。
- 2 計画かんがい方式
かんがい方式
水田 パイプラインによる貯留かんがい方式

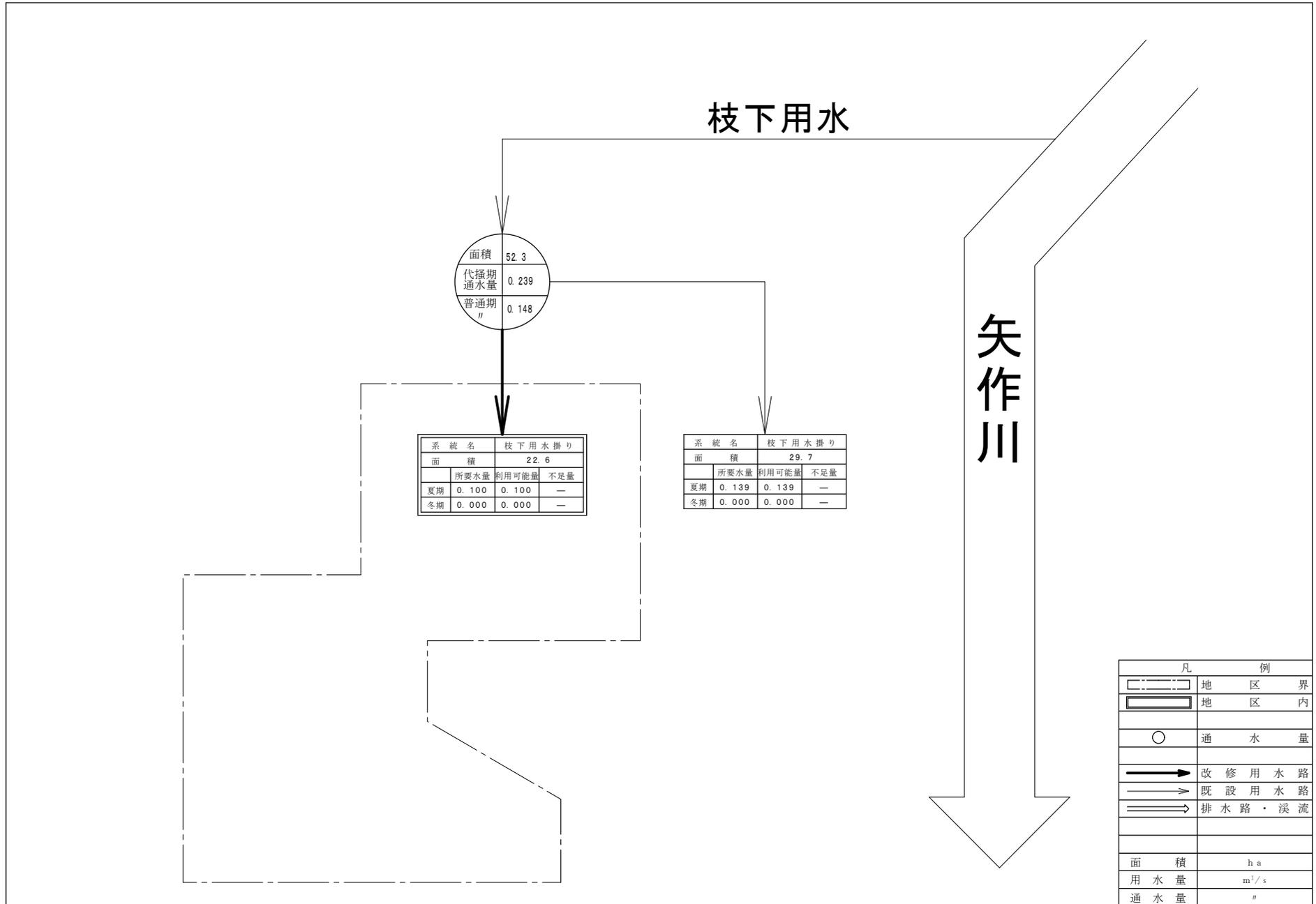
かんがい期間
水田（普通期） 6月1日～9月30日（代掻6日間）
- 3 計画用水系統
(次頁 計画用水系統図 参照)
- 4 計画用水量
(1) かんがい用水

(第10表-1-1)

項目 系統名	種別	面積 (ha)		水田かんがい			水田畑利用			畑地かんがい			その他		消費水量 (m ³ /s)	損失率 (%)	粗用水量		備考
		事業名		普通期	代掻期	面 積 (ha)	1日当 り計画	平均 間断 日数	面 積 (ha)	1日当 り計画	平均 間断 日数	面 積 (ha)	計 画 平 均 単 位 用水量	面 積			平 均 大	最 大	
		経営体 育成基 盤整備 事業	計	計 画	計 画		1日当 り計画 平均かん 水深	平均 間断 日数		1日当 り計画 平均かん 水深	平均 間断 日数		計 画 平 均 単 位 用水量	面 積					
				平均 単 位 用水量 (mm/日)	代 掻 単 位 用水量 (mm/日)	(mm/日)	(日)	(mm/日)	(日)	(mm/日)	(ha)	(m ³ /s)	(m ³ /s)						
狸山	農業用水	22.6	22.6	15.5	150.0	22.6	-	-	-	-	-	-	-	0.090	10	0.062	0.100		

(2) 営農飲雑用水
該当なし

計 画 用 水 系 統 図



5 水源計画
 (1) 水利用計画

(第10表-2)

項目 区分	消費水量 a (千m ³)	有効雨量 b (千m ³)	純用水量 c=a-b (千m ³)	粗用水量 d=c/(1-α) (千m ³)	現況利用可能水量			不足水量		水源依存量		水源 工種	備考
					水源名	取水地点 利用可能量	ほ場利用 可能量	純不足水量	全不足水量	水源名	水量		
						e (千m ³)	f (千m ³)	g=c-f (千m ³)	h=d-e (千m ³)		(千m ³)		
事業名 経営体 育成基盤 整備事業	454.8	82.4	372.4	413.8	枝下用水	413.8	372.4	-	-	枝下用水	413.8	既設利用	α=10%

(2) 用水対策

(ア) 貯水池
 該当なし

(イ) 井堰及び自然取入口
 該当なし

(ウ) 揚水機
 該当なし

(エ) 用水路

(第10表-6)

名称	項目	かんがい面積(ha)		最大通水量 (m ³ /s)	延長 (km)	構造	備考
		事業名					
		経営体育成 基盤整備事業	計				
支線用水路		22.6	22.6	0.070	4.6	パイプライン	塩ビ管VUφ75~500

(オ) その他の水源施設
 該当なし

(3) 水質水温
 該当なし

第4節 排水計画

1 計画基準雨量

日雨量 154.2mm/日 (1/10年確率) 豊田観測所 (1891年～2023年、1950年は欠測) の
 既往133年間の観測記録から岩井法により確率雨量を求める。
 R24 = 154.2mm/日 R4 = 63.0mm/4hr

2 計画排水方式

自然排水 4時間雨量・4時間排除

3 計画排水系統

(次頁 計画排水系統図 参照)

4 計画排水量

(第11表-1)

項目 排水系統名	受益面積 (ha)		流域面積 (km ²)		基準雨量 (mm) 4時間雨量 4時間排除	降雨による直接単位 流出量 (m ³ /s/km ²)		基底流出量 (m ³ /s/km ²)		全排水量 (m ³ /s)			単位排出量 (m ³ /s/km ²)		備考
	事業名		山地	平地		山地	平地	山地	平地	平地		山地	平地		
	経営体 育成基盤 整備事業	計								自然排水	機械排水			上段: 輪換耕地 下段: その他	
狸山	22.6	22.6	—	0.344	63.0	—	2.188 3.500	—	—	—	0.926	—	—	2.188 3.500	

5 排水対策

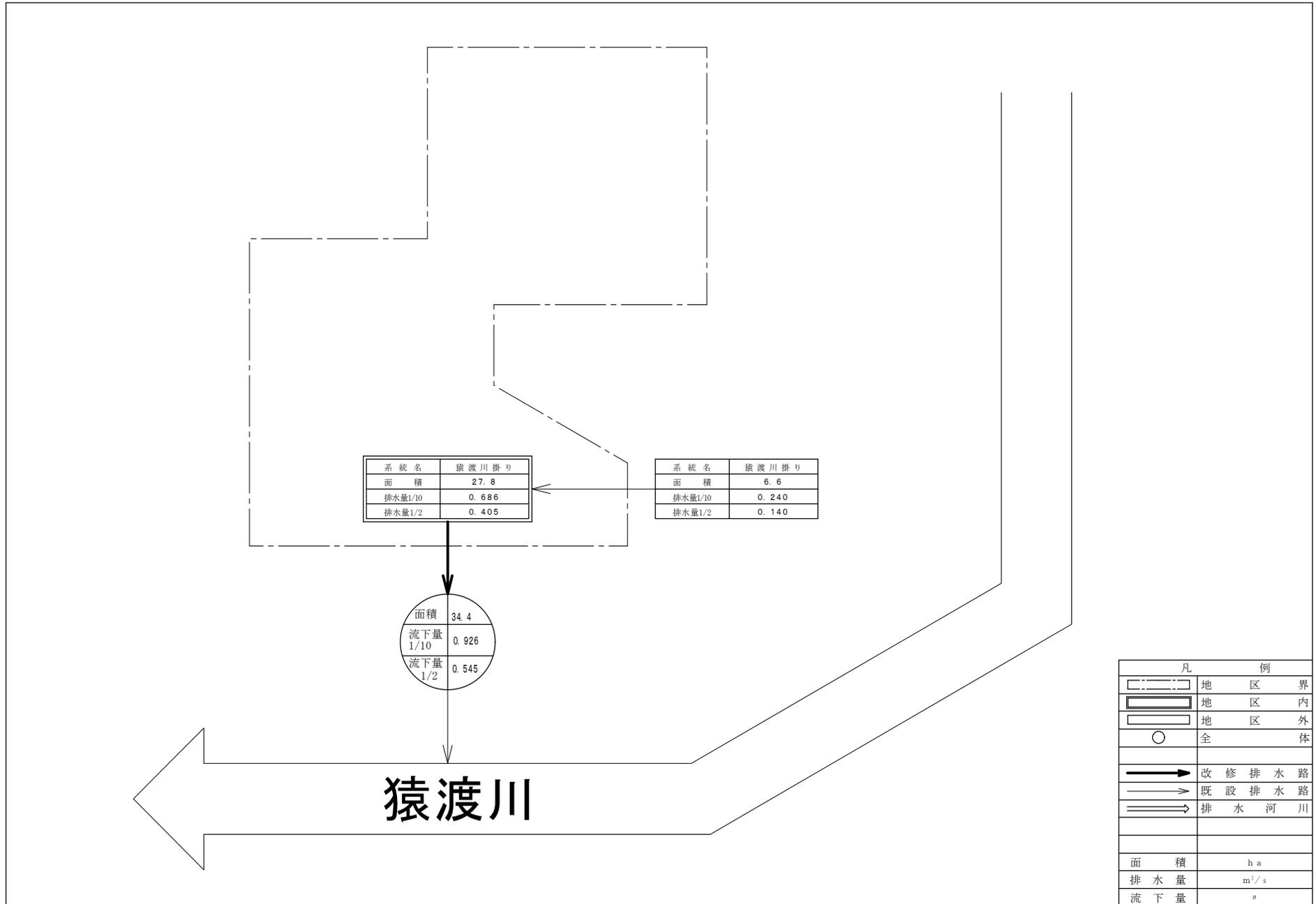
(1) 排水水門

該当なし

(2) 排水機

該当なし

計画排水系統図



系統名	猿渡川掛り
面積	27.8
排水量1/10	0.686
排水量1/2	0.405

系統名	猿渡川掛り
面積	6.6
排水量1/10	0.240
排水量1/2	0.140

面積	34.4
流下量1/10	0.926
流下量1/2	0.545

猿渡川

凡	例
	地区界
	地区内
	地区外
	全体
	改修排水路
	既設排水路
	排水河川
面積	h a
排水量	m ³ /s
流下量	"

(3) 排水路

(第11表-4)

項目 名称	流域面積 (km ²)	受益面積(ha)		計画排水量 (m ³ /s)	延長 (km)	構造	排水本川			備考
		事業名					名称	計画洪水量 (m ³ /s)	計画洪水位 (m)	
		経営体育成 基盤整備事業	計							
支線排水路	0.344	22.6	22.6	0.926	3.3	組立柵渠Ⅱ型	—	—	—	

(4) その他

該当なし

6 湛水検討

該当なし

第5節 道路計画

1 道路及び索道

(1) 道路

(第12表-1)

路線名	項目	幅(有効) (m)	×	延長 (km)	構造	既設道路との関係	備考
支線道路		5.0	(4.0)	×	6.4	砂利舗装	県道・市道への連絡

(2) 索道

該当なし

2 路線配置図

(次頁 計画道路配置図 参照)

計 画 道 路 配 置 図



第6節 農用地造成計画

該当なし

第7節 洪水調整計画

該当なし

第8節 干拓計画

該当なし

第9節 農用地整備計画

1 区画整理

本地区の農地は、ほ場整備未実施であり、区画は約10aと小さく、道路幅員が狭い。また、用排分離がされておらず、農地に接する末端排水路が無い農地も多いため、水管理に多大な労力を要している状況である。このため、区画整理により、標準区画30a（40m×75m）を基本とする区画整理を行い、大型機械の導入及び農地の集団化を図る。

(1) 区画の形状

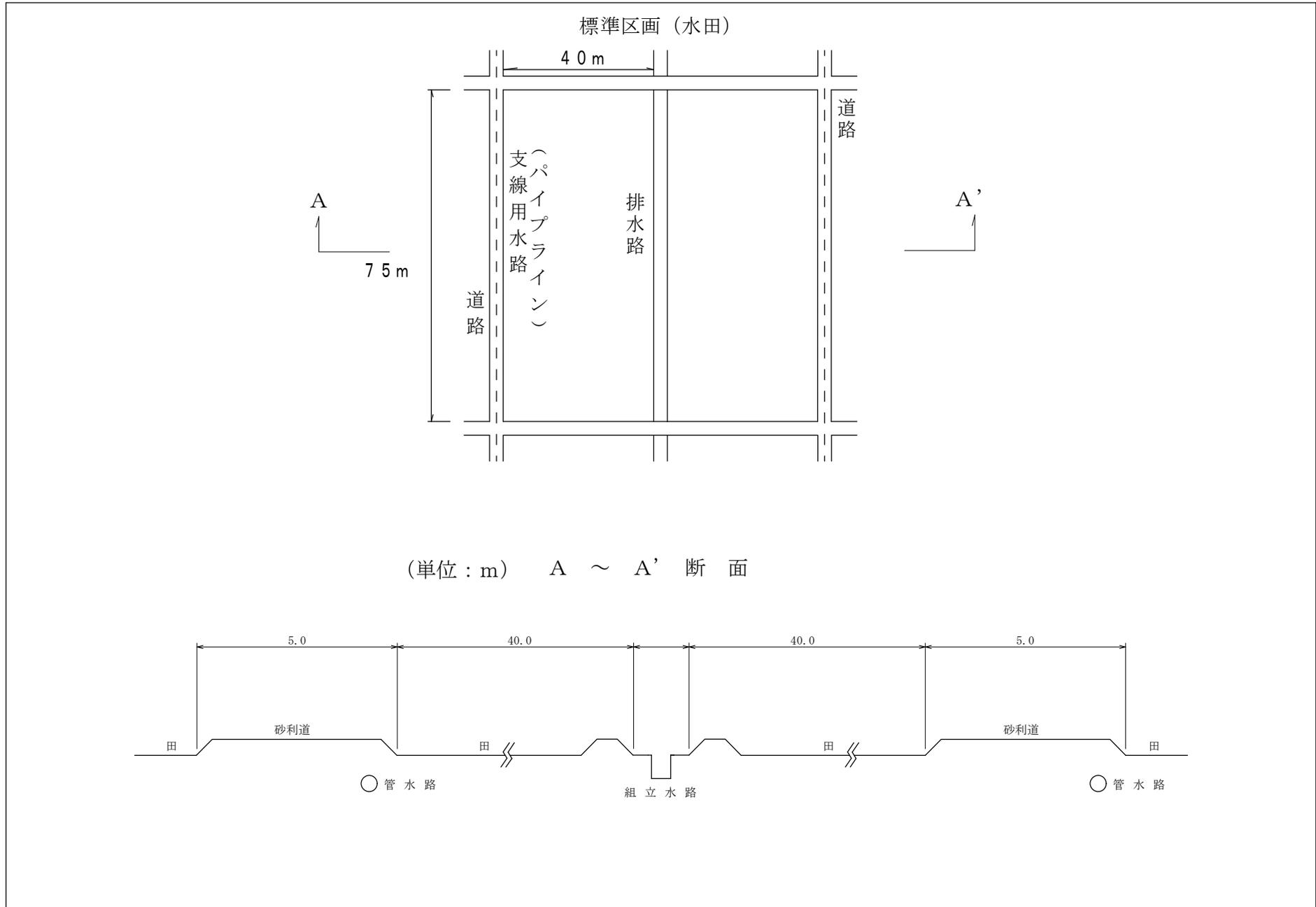
(第16表-1)

長辺 × 短辺 (m)		区画面積 (ha)	全体面積 (ha)	割合 (%)	田面差 (m)	備考
水田	100×50～	0.5～	3.2	15	-	
	75×40～100×50	0.3～0.5	9.6	42	-	
	～75×40	～0.3	9.8	43	-	高低差1.0m以上
計			22.6			

(2) 表土扱い 該当なし

(3) 末端道水路配置図 (次頁 末端道水路配置図参照)

末端道水路配置図



2 暗渠排水

(1) 暗渠排水

区分	項目	面積 (ha)		土壌統 (区) 分	基準雨量 (mm/日)	単位排水量 (ℓ/s/ha)	計画後の 地下水位 (m)	集水渠出口 以下の 排水方式	備 考
		事業名							
		経営体育成基 盤整備事業	計						
	湧水暗渠	22.6	22.6	岩屋統、高棚統、 古屋統	-	-	-	自然排水	

(2) 心土破砕

該当なし

3 客 土

該当なし

4 農地保全

該当なし

第10節 老朽ため池改修計画

該当なし

第5章 主要工事計画

第1節 用水施設

1 貯水池
該当なし

2 頭首工
該当なし

3 揚水機
該当なし

4 用水路

(第17表-4)

区分	かんがい面積(ha)		通水量 (m ³ /s)	延長(km)			構造	勾配 (%)	主要構造物	備考
	事業名			開きよ	トンネル その他	計				
	経営体育成 基盤整備事業	計								
支線用水路	22.6	22.6	0.001~0.070	-	4.6	4.6	パイプライン	0.02~1.18	-	

5 その他かんがい施設
該当なし

第2節 排水施設

- 1 排水水門
該当なし
- 2 排水機
該当なし
- 3 排水路

(第18表-3)

区分	受益面積 (ha)		排水量 (m^3/s)	延長 (km)			構造	勾配 (%)	主要構造物	備考
	事業名			開きよ	トンネル その他	計				
	経営体育成 基盤整備事業	計								
支線排水路	22.6	22.6	0.926	3.3	—	3.3	組立柵渠Ⅱ型	0.1	—	

- 4 その他排水施設
該当なし

第3節 道路及び索道

1 道路

(1) 道路の総括表

(第19表-1)

項目 路線名	路線名	幅(有効) × 延長 (m) (km)	構造	付帯構造物			最急 こう配 (%)	同左の 延長 (m)	最小 曲線半径 (m)	備考
				名称	構造	数量 (箇所)				
支線道路	50路線	5.0 (4.0) × 6.4	砂利舗装	-	-	-	8%以内	6,360	-	

(2) 道路主要構造物

該当なし

2 索道

該当なし

第4節 農用地造成

該当なし

第5節 洪水調整施設

該当なし

第6節 干拓施設

該当なし

第7節 農用地整備施設

1 区画整理

(1) 区画整理

(第23表-1)

工区名	面積 (ha)	整地工		表土扱い		備考
		標準区画	土量(m ³)	面積 (ha)	土量(m ³)	
狸山	3.2	100×50～	13,801	-	-	水田
	9.6	75×40～100×50	53,441	-	-	水田
	9.8	～75×40	128,706	-	-	水田

(2) 末端用水路等
該当なし

(3) 末端排水路等
該当なし

2 暗渠排水

(1) 暗渠排水

(第23表-4-1)

項目 区分	面積 (ha)	集水渠				排水渠					集水渠出口以下の排水施設			備考
	事業名	勾配	管種	管径 (mm)	延長 (m/ha)	勾配	管種	管径 (mm)	深さ (m)	延長 (m/ha)	名称	構造	数量 (個/ha)	
湧水暗渠	22.6	1/200	塩ビ管	φ65	-	1/800	ポリエチレン管	φ50	0.7	-	水閘	カラー水閘	3	

(2) 心土破碎
該当なし

3 客土
該当なし

4 除礫
該当なし

5 農地保全
該当なし

第8節 老朽ため池改修施設

該当なし

第6章 附帯工事計画

用地買収及び補償費

(1) 用地買収
該当なし

(2) 補償費
電柱補償・・・・・・・・・・ 22 本
市水道管補償・・・・・・・・ 885 m

第7章 工事の着手及び完了の予定時期

1 工期 着手 令和7年度
完了予定 令和16年度（予定）

2 工事の年度割予定

年度 工種	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度	令和13年度	令和14年度	令和15年度	令和16年度	備考
区画整理											

第8章 環境との調和への配慮

1 配慮の対象

地区内の農地にはカエル類の希少種等の生息が確認されており、良好な生物生息空間が確保されているため、生息環境の保全に配慮していくものとする。

2 配慮の方法

本地区は、豊田市田園環境整備マスタープランにおいて環境配慮区域となっており、地区内の農地及び周辺には、多くの生物が見られ、良好な生物生息空間が確保されている。

そのため、施工時期は保全対象生物が少ない時期を選ぶこととし、また、排水先の地区外排水路の手前で沈砂池を設ける等、濁水及び土砂流出の防止を図るとともに、低騒音・低振動・排出ガス対策型建設機械を使用し、周辺環境に配慮する。

また、排水路に両生類等の移動経路の確保を目的とした配慮工を設置する。

第9章 換地計画の概要

第1節 換地計画を作成する上での基本的な考え方

生産基盤整備事業による高生産性農業が見込まれる大規模農地を整備することにより、将来の農業生産を担う経営体への農用地利用集積を積極的に進め、土地利用の合理化を図る換地計画を作成するものとする。

第2節 換地区の設定

1 換地区の名称、所在、面積

(第25表-1)

換地区名	換地区の所在地	面積 (ha)
狸山	豊田市若林東町、竹元町地内	27.8

2 換地区を設定する理由 該当なし

第3節 換地計画樹立の基本方針

1 従前の土地の地積の基準

(第25表-2)

換地区名	地積の基準
狸山	換地交付の基準とする従前の土地の地積は、土地改良事業計画確定の日の登記簿地積とする。ただし、上記の日から6か月以内に測量士、測量士補又は土地家屋調査士の測量した実測図及び隣接所有者の同意書を添付して豊田土地改良区へ申出があった場合は、その申出のあった地積とする。この場合、測量等にかかる費用は本人負担とする。

2 用途別予定地積

(単位：ha) (第25表-3)

用途 (取得 予定者)	非農用地区域外に換地する土地												非農用地区域に換地する土地								機能交換に係る土地				一般 国 公有 地	総 合 計			
	田	畑	山林・ 原野	その他	通常事業施行地 域に含める土地 (令第1条の9() 書き)			計	本事業によって 生ずる土地改良 施設用地			創設 農用地	合計	特定用途 地			異種 目換地	創設非農用地				合計	国	県			市 町 村 他	合計	
					施 土 地 改 良	そ の 他	小 計		改 良 区	そ の 他	計			宅 地	そ の 他	計		農 業 経 営 合 理 化 施 設 用 地	生 活 上 ・ 経 営 上 必 要 な 施 設 用 地	公 用 ・ 公 共 用 施 設 用 地	宅 地 等								計
狸 山	従前地	25.7	-	-	0.0	1.1	-	1.1	26.8	-	-	-	-	26.8	0.2	0.2	0.4	-	-	-	-	-	0.4	-	-	0.6	0.6	-	27.8
	換地	22.6	-	-	-	1.1	-	1.1	23.7	3.6	-	3.6	-	27.3	0.2	0.2	0.4	-	-	-	-	-	0.4	-	-	0.1	0.1	-	27.8

3 農用地集団化の方針

(第25表-4)

換地区名	区分	地帯別・グループ別 団地の設定	個人別換地の方法		
			位置の選択方法	1戸当たり目標団地数	区画畦畔の取扱い
狸山		地目別集団化	水田は、事業計画が示された地目別地帯へまとめて換地する。	概ね1～2団地	移動畦畔
		農用地利用集積促進区 域別集団化	地区内に育成すべき経営体への農用地の利用集積を積極的に図る区域を設定する場合には、当該区域に関する権利者の承諾を得るようにするとともに、当該地区内に換地が定められることを希望する者は、できるだけ当該区域内に換地が定められるようにする。		

4 非農用地換地の方法

(第25表-5)

区分 換地区名	用途	非農用地区域の位置の概略	面積 (㎡)	換地の方法	換地取得予定者	その他
狸山	宅地	豊田市若林東町三和	1,411.57	特定用途 用地換地	従前地所有者	
	ため池	豊田市若林東町象ヶ鼻	2,142	〃	従前地所有者	
	鉄塔用地	豊田市若林東町下東間	192	〃	従前地所有者	
合 計			3,745.57			

第4節 土地の評価及び清算の方法

1 評価の方法

項目別配点方式

土地の自然条件及び利用条件等を調査項目とし、それらの条件の比重によって100点を配分して評価採点基準表を作成し、換地・評価委員がその項目内における条件の程度を点数に置き換え、項目毎に採点をし、その合計点数からその土地の等位を定め、その等位から価格を評定する。

2 清算の方法

比例地積清算

従前、換地の評価額に基づき、その事業による価格上昇分を増加額として算出する。それを1㎡当たりの増加額に割り戻す事により各人別に換地交付基準額を算出し、各人の換地評価額を比較し清算する。

第5節 換地計画樹立の年度計画

(第25表-6)

区分 換地区名	一時利用地の指定予定年度	換地計画の決定予定年度	換地処分予定年度	備考
狸山	令和 15 年度	令和 16 年度	令和 16 年度	

第6節 換地処分の時期に関する特則

換地区の全部について区画に係る工事が完了し、確定測量が行われたときは、土地改良法第89条の2第10項において準用する同法第54条第2項本文の規定に関わらず、換地処分をすることができる。

第10章 事業費の総額及び内訳

(第26表)

区分	事業名	経営体育成基盤整備事業		備考
		(千円)		
	事業費 ^{※1)}	1,209,000		
	事務的経費 ^{※2)}	74,000		
	計	1,283,000		
(関連事業 参考)				

令和6年度単価。消費税については10%にて算定。(ただし、物価変動により将来変動することがある。)

※1) 事業費とは土地改良事業に要する費用のうち、事務的経費を差し引いた費用。

※2) 事務的経費とは昭和48年7月23日付け48構改D第609号(設)農林水産省構造改善局長通知により定められた事務費及び工事雑費。

第11章 効 用

(第27表)

事業名	区 分	項 目	年総効果（便益）額 （千円）	年総増加農業所得額 （千円）		備 考
					うち機能向上分	
経営体 育成基盤 整備事業		作物生産効果	25,708	2,251	2,251	
		品質向上効果	1,200	-	-	
		営農経費節減効果	32,269	35,740	35,740	
		維持管理費節減効果	△ 1,879	△ 579	△ 579	
		営農に係る走行経費節減効果	872	-	-	
		地積確定効果	766	-	-	
		景観・環境保全効果	704	-	-	
		国産農産物安定供給効果	5,184	-	-	
		計	64,824	37,412	37,412	令和6年度単価

<参考>

①当該事業費	932,012 千円		
②その他費用	132,581 千円		
③総費用	1,064,593 千円		
④年償還額	- 千円/年		
④' うち機能向上分	- 千円/年		
⑤年総効果（便益）額	64,824 千円/年		
⑥現況年総農業所得額	6,831 千円/年		
⑦年総増加農業所得額	37,412 千円/年		
評価期間	50 年		
割引率	0.04		
⑧総便益額	1,179,950 千円		
⑨総費用総便益比 (⑧÷③)	1.10	≧	1.0
⑩総所得償還率 (④÷⑥)	-	≦	0.2
⑪増加所得償還率 (④' ÷⑦)	-	≦	0.4

第12章 関連する事業

該当なし

第13章 現況・計画平面図

- 1 現況平面図
別紙『現況計画平面図』参照
- 2 計画平面図及び土地利用計画図
別紙『現況計画平面図』参照
- 3 主要構造図
別紙『現況計画平面図』参照